

2022年6月

「なんば駅周辺における空間再編推進事業整備プラン（案）」に対する意見

大阪商工会議所

1. 建議先

大阪市

2. 本会議所の意見

はじめに

- 「なんば駅周辺における空間再編推進事業整備プラン（案）」（以下、「本プラン」）は、2015年2月に発表した「ミナミの賑わいづくり、魅力発信に向けた提言」以降、大阪商工会議所がこれまで求めてきた方向性と概ね同じであり、2025年大阪・関西万博の開催を控えたこの時期に、本プランを取りまとめられたことは時宜を得ている。
- 本プランにある「人が主役となり、安全で安心に、居心地が良い道路空間を形成する取組みを推進」するためには、まちづくり（都市計画）に加えて、まち育て（都市経営）を担う官民共創が不可欠。なんば駅周辺における取組みを官民共創のモデルケースとすべく、大胆で積極的な施策を展開されたい。
- 大阪商工会議所は、大阪府内における人口、産業の地域間格差の是正が不可欠との観点で、大阪府南部（泉州・南河内）の商工会議所・商工会、企業、大学、関係団体と「グレーターミナミ連携会議」を設置し、活性化に取り組んでいる。なんばは、グレーターミナミの玄関口であり、大阪を代表するエリアとして国内外からの観光客に認知度が高い。このエリアが有する情報発信力をグレーターミナミエリアへ波及させる視点を本プランに盛り込まれたい。

1. なんば駅周辺の現況と動向

- なんば駅周辺では、2016年11月と2021年11月～12月の2回にわたり社会実験が実施されたが、利用者を対象にしたアンケート調査ではいずれの場合も9割から評価を得ている。こうした利用者の声を踏まえて、世界の主要都市と同じく、なんば駅前においても、道の主役を車から人に変えていく取組みを強力的に推進されたい。

2. 「なんば駅周辺道路空間の再編に係る基本計画」におけるコンセプト（めざすべき方向性）

- 「なんば駅周辺道路空間の再編に係る基本計画」は、大阪商工会議所も参画した官民による「なんば駅前広場空間利用検討会」で策定したものであり、そこで示された「新たなシンボル空間の創出」「世界をひきつける観光拠点づくり」という方向性に賛同する。

3. 基本方針

- 道路空間再編、シンボル空間創出の2つの観点から示された計6つの方針は、「なんば駅周辺道路空間の再編に係る基本計画」を踏まえつつ、そこに「多様な人々が活動、発信できる場所」という今日的なニーズを取り込んだ内容で評価できる。ただ、「誰もがクリエイティブになれる場所」をめざすのであれば、元からクリエイティブな人々に活動の舞台を提供するだけでなく、この場所での出会い、人との交流を通じて創造性が刺激され、「誰もがクリエイティブになれる」という視点も盛り込まれたい。

4. 整備計画

（1）全体計画

- 人が主役となり、居心地が良い道路空間を形成するためには、歩行者の安全、安心をまず第一に考え、自動車交通や自転車走行との交錯が生じないように、十分に配慮されたい。
- タクシープールやバス停の再配置計画にあっては、再配置先の周知やわかりやすいサイン表示・誘導など、利用客の利便性が高まる取組みも進められたい。また、大型キャリーバックを携行する観光客が駅前広場周辺でタクシーやバスから降車する際の交通渋滞を避けるため、降車専用スペースも設けられたい。
- なんば駅周辺に立地する多くの商業施設や飲食店は、まちの大きな魅力であり、荷捌き機能の確保は極めて重要な課題である。なんさん通り南北においては、貨物車両に限り午前1時から同9時は通行可能という方針が示されているが、車両通行禁止の規制時間帯については、周辺商店街の意見も十分に踏まえたい。

（2）区間・エリアごとの整備計画

- 「なんば駅周辺道路空間の再編に係る基本計画」で示された「上質な設え」が継承された内容は評価できる。世界の主要都市においても、上質な空間整備（ハード）が新たな利用方法（ソフト）を誘導している事例が多い。駅前

広場においても、大阪のおもてなし玄関口にふさわしい素材やデザインを取り入れるとともに、滞留性を高める施設(休憩や喫煙のスペース等)や照明、樹木等のみどりについても、ワールドクラスの美しさを備えるものを整備されたい。

5. 持続的な維持管理に向けて

- 持続的な維持・運営に向けて官民でビジョンを共有し、役割分担しながら都市魅力の創出に向けて共創する、という基本的な考え方には賛同する。行政の窓口担当者が異動等で交代になった場合も、この基本的な考え方が長期にわたって共有されるように、現場での徹底をお願いしたい。
- 本プランがめざすべき方向性は、「新たなシンボル空間の創出」「世界をひきつける観光拠点づくり」である。今後の維持・運営において、新たな課題やニーズが生じたときは、このめざすべき方向性に立ち戻って、高い視座から議論、検討できる体制を整備されたい。そういう観点から、本項のタイトルについては、「5. 持続的な維持管理に向けて」から「5. 持続的な維持管理・運営に向けて」に変更されたい。
- なんばは、大阪を代表するエリアとして国内外からの観光客に認知度が高く、大阪のおもてなしの玄関口となっている。交通の結節点でもあることから、このエリアが有する情報発信力を大阪府南部や周辺エリア等へ波及させる視点での運営をお願いしたい。

6. 当面の進め方

- 2025年大阪・関西万博は、国内外からの多くの来街者に向けて、大阪の都市魅力を発信する大きなチャンスとなる。なんば駅前広場において、万博開催期間中に効果的な魅力発信を展開するためには、万博開催前からの実験的な使用を可能とし、運営の担い手となるエリアマネジメント組織がノウハウを蓄積する必要がある。広場部分については、できるだけ早期に使用を開始できるように、先行整備を進められたい。
- エリアマネジメント組織が管理・運営を担うことを前提としたうえで、その責任に見合う権限の付与が極めて重要。例えば、現在、道路区域での各種イベント・広告占有などは設置物に対して1件1件、道路管理者・交通管理者協議が必要だが、同じ公共空間である河川区域では「包括(一体)占有」として、エリア単位での占有許可が認められている。2025年大阪・関西万博に向けては、大阪都心全体において、道路・河川・公園・広場・公開空地等の都市の共用部(コモンエリア)のハードインフラをうまく活用し、必要な規制緩和も講じながら豊かな交流を生み出すソフト事業を展開すること

で、イノベーション（新結合）を促進する環境を整備すべき。なんば駅周辺における取組みを官民共創のモデルケースとすべく、エリアマネジメント組織に対する積極的な権限付与を講じられたい。

7. 今後の検討事項

- 持続的な維持・運営に向けては、官民が役割分担しながら活動を推進していくことが不可欠だが、その裏付けとなる費用負担についても十分な議論が必要。初期整備と維持管理（ハード）は行政、運営と環境維持（ソフト）はエリアマネジメント組織という二元論では整理できない費用（例えば、広場という機能を維持するために必要な交通誘導員警備の費用等）については、行政と官民で十分に話し合い、協力して費用負担する仕組みを構築されたい。

以 上